

## 三浦半島沿岸のウミヒルモ (*Halophila ovalis*) の分布と生育状況

大森雄治\*・林 公義\*

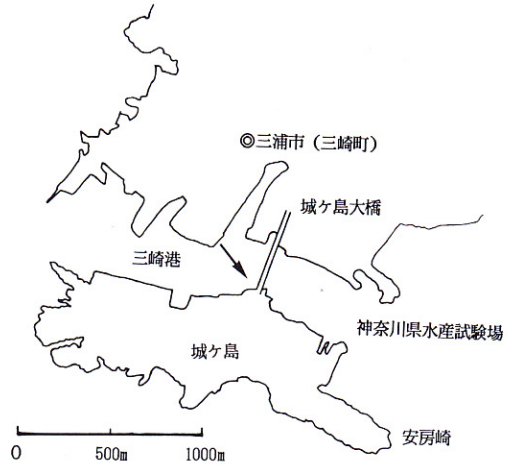
### Distribution and habitat of *Halophila ovalis* in the Miura Peninsula

Yuji OMORI\* and Masayoshi HAYASHI\*

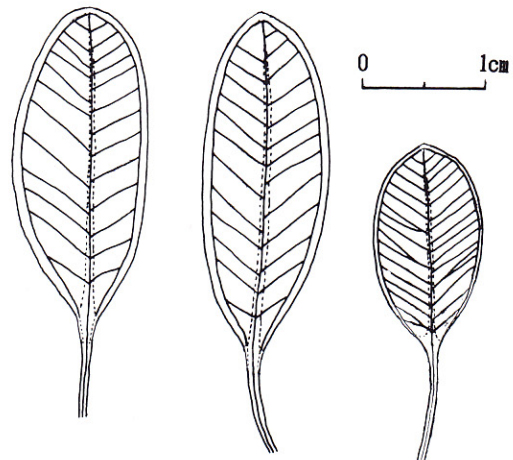
三浦半島沿岸のウミヒルモ *Halophila ovalis* (R. Br.) Hook. fil. は三浦半島油壺湾でのドレッジの記録(矢部, 1900)と三浦市三崎と横浜市金沢での記録(神奈川県博物調査会, 1933)があるほか, 最近の図鑑(山下, 1981)では三浦半島南端の三浦市城ヶ島産の生態写真が紹介されている。しかし, 神奈川県博物誌調査会による調査(1979~1988年)では証拠標本を得る機会がなかった(神奈川県植物調査会編, 1988)。我々は上記図鑑の写真提供者楚山 勇氏の撮影データをもとに, 1989年8月24日, 城ヶ島沿岸を調査し, 島の北岸ほぼ中央の城ヶ島大橋下, 水深約1.5mの砂泥地で, アマモ *Zostera marina* の周囲に群生するウミヒルモを見つけることができた(第1図)。このようにアマモと共に見られるウミヒルモの生育状況は, 東京湾口における田中ほか(1962)の観察例と一致し, 単独で群生する九州以南の生育状況とは異なるものである。このほか, 同年9月1日には天神島の南岸でコアマモ *Zostera japonica* とともに打ち上げられたウミヒルモの葉を少数ながら採集することができた。楚山氏によれば, このほか葉山町森戸海岸でも見ることができるとのことであったので, 三浦半島の南岸と西岸の砂泥地には点々と見られるようである。

城ヶ島産のウミヒルモの葉は, 楕円形で, 長さ20~25mm, 幅9~11mm, 側脈の数は10~13対(第2図, 標本番号 YCM-V13635; 比較のため, 奄美大島で採集した個体の葉形も図示した。)である。南西諸島にみられるものに比べ, 側脈の数が少なく, 大きい。これは MIKI (1934) の分類した3型のうち, 中間型に当たる。ウミヒルモの分布の北限は2月の海水面温度が10℃の等温線と一致するとされ(MIKI, 1934), 天神島の2月の海水面温度, 11~12℃(横須賀市自然博物館, 1990)は北限に近いことを示している。

追記: 城ヶ島のウミヒルモ生育地は, 1989年秋に海岸整備工事で客土するため, 神奈川県港湾部によりやや沖合いに移植された。1990年7月18日に再調査したところ, 前年に比べ少なくなったものの定着していた。



第1図 ウミヒルモ *Halophila ovalis* の生育地(矢印)。



第2図 ウミヒルモの葉形。左・中: 城ヶ島産(城ヶ島北岸, 水深1.5m, YCM-V13635), 右: 奄美大島産(奄美大島崎ノ目海岸, 水深15m, YCM-V16023)。

#### 引用文献

神奈川県博物調査会 1933. 神奈川県植物目録. 111+

\* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238.

原稿受付 1990年9月11日 横須賀市博物館業績 第410号

キーワード: ウミヒルモ, 海産種子植物, 三浦半島 Key words: *Halophila*, Miura Peninsula, sea-grass

- 23ページ, 神奈川県博物調査会.  
神奈川県植物誌調査会編 1988. 神奈川県植物誌1988.  
1443ページ, 神奈川県立博物館.
- Miki, S. 1934. On the sea-grasses in Japan II. Cymodoceaceae and marine Hydrocharitaceae. *Bot. Mag. Tokyo*. **48**: 131-142.
- 田中 剛・野沢治治・野沢ユリ子 1962. 本邦産海産顕花植物の分布について. *植物分類, 地理*, **20**: 180-183.
- 矢部吉禎 1900. 相模三崎東京帝国大学臨海実験所付近植物目録. *植物学雑誌*, **14**: 42-43, 62-66, 78-79.
- 山下貴司 1981. トチカガミ科ウミヒルモ属. 佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 I 草本単子葉類」: 7, 図版 5, 平凡社.
- 横須賀市自然博物館 1990. 横須賀市自然博物館付属自然教育園気象概況・1989年. *横須賀市博覧報*, (37): 29.